

小さなご縁を大きな絆に育てて!

●高柳さんから『会報 USA』をいただいて!

(高22回)から『会報 USA/2022年6月号』が贈られてきました。今号では先月29日に行われた『**音楽の都ウィーンからの贈り物/富田千種バリトニリサイタル**』についての記事(下)がありました。

今回の出演者3人のご縁をつくってくださったのが高柳さんとのことで、このことについては「会報 USA/2月号」で知り、2月11日付けの「夏炉冬扇第5965号/自分の考え方を公表する覚悟!」でも綴らせていただきましたが、改めて感謝申し上げたいと思います。

私と富田様(19回)との出会いも、故・綿貫均先輩(14回)が経営されていた「ヘンリー茶夢」という店での同期会の打合せがきっかけでした。春日部地区浦高会の創立15周年記念事業を模索していた私にとって、富田様からの「春日部でドイツ歌曲のコンサートを開催したい」という申し出はありがたいものでした。1年目は集客に苦労したものの、2年目、3年目と会員の皆様のご協力で盛大に開催することができました。

最初の企画書は「中高生のためのクラシック・コンサート」と味気ないものでしたが、富田様から「いずれウィーンフィルやウィーン在住のオペラ歌手も登場させよう」という夢のようなご提案を受けて『**音楽の**

富田千種氏バリトニリサイタル開催される
5月29日 会場:さいたま市プラザイースト
当会OBの根岸優至くん(東大卒)も出演
USAの後輩たちも多数応援に行きました

日本人初のウィーン国立歌劇場の専属歌手の富田千種氏(在ウィーン49年・浦和高校時代に私和之の3年先輩)の、バリトニリサイタルが行われました。出演は富田氏の他に、若い20代の宮崎紗織氏と、根岸優至氏でした。

実は、この3名の出会いは当USAの保護者会でした。会報USA本年2月号でも触れましたが、簡単におさらいをしてみましょう。

富田氏と私の出会いは高校の同窓会でした。また、私の所属するロータリークラブでは留学生支援活動を行っており、宮崎氏のウィーン留学を知りました。私が「ウィーンに知り合いの歌手がいる」と話す、「是非紹介して欲しい」という話になり、2019年9月のUSA保護者会に両者を招き、初対面となったのです。

根岸氏(以下優至[ゆうじ])は、当時東大4年生。全国歌唱コンクールで優勝するなど、その方面で活躍していました。上記保護者会に優至の出席を促し3名の顔合わせが実現しました。

そうした3名による演奏会だったのです。

演奏会には、富田氏と私の高校の同窓生もたくさんかけつけ、USAからも大勢の保護者や生徒の皆さんに来ていただきました。

演奏会終了後、USAからの花束が3名に贈られました。スタッフの小原英子さんから宮崎紗織氏に、弥谷拓哉くんから優至に、そして私和之から富田千種氏に手渡されました。

富田氏は、3名のUSAでの出会いをマイクを通して観客の皆さんに紹介、その後、私も舞台上から皆様に挨拶をさせていただきました。【左】

終了した後は優至と面会の機会がありしばし談笑できました。後輩の弥谷拓哉・前島幸太郎との記念ショット。【右】



を通して観客の皆さんに紹介、その後、私も舞台上から皆様に挨拶をさせていただきました。【左】



会報USA 2016年4月号より

**そろばんを習って良かった
東京大学 理科Ⅱ類 根岸 優至**



根岸三兄弟: 三男集都(岸中3年)・次男直輝(浦高2年)・長男優至(東大1年)

USA前地教室卒業生の根岸優至です。この春、筑波大学附属高校を卒業し、東京大学理科Ⅱ類に合格しました。大学進学にあたり、自分のこれまでの振り返ったときに、そろばん塾への感謝の気持ちがこみ上げてきたので、今回寄稿させていただきました。

東京大学と聞くと勉強ゴリゴリの受験生をイメージする方もいると思いますが、自分はそんなに真面目な方ではなかったと思います。(笑)

そろばん塾での思い出といえば、夏の御岳山合宿の時のバスでカラオケをしたり、合宿の練習をそっと抜け出して、和之先生と囲碁を打ったり(ダメですね!笑)、またあるときには、『千の風になって』のメロディにのせて読上算を読んだり、たわいもないものばかりです。もちろん、練習の時には「よーい、はじめ」の声とともに一心不乱に問題を解きました! そろばんのおかげで、楽しむときは楽しみ、集中するときは集中するという「メリハリ」をつけられるようになりました。

自分は、父、伯父、いとこがUSAの卒業生で、小学4年生のときに入塾しました。中学時代も部活で疲れながらも続けましたが、高校、大学受験を前にやめてしまいました。学習塾かそろばん塾か。一概には言えませんが、自分はそろばんで学んだことは、決して無駄にはなっていないと思います。

受験勉強はその多くが単純作業です。結局は自分が勉強するかしないかです。そろばんで忍耐力や集中力、根性を培ったことは、受験勉強にも大いに役立ちました。勉強はとっかかりが面倒臭く、続かないことも多そうですが、そろばんでは達成感が味わえ、楽しく伸びることができました。

また、そろばんで培った計算力は実際に受験でも活かしました。「化学」という教科の、有効

数字2桁、3桁の計算では、3桁同士、4桁同士の、かけ算、わり算が暗算でできると時間節約になりました!

そろばんそのものはただの計算ツールですが、そろばんを通じて得られるものは、無限大だと思います。自分でもちゃんと勉強はしながら、是非そろばんを長く続けてほしいです。



『**音楽の都ウィーンからの贈り物**』という素敵なタイトルとなり、2016年にはウィーンフィルのヴィオラ奏者・セバステイアン・フーリンガー様とピアニストのポール田中七子様、2017年にはソプラノ歌手のシルヴィア・リーザー様にご出演いただくことができ、さらに野田市やさいたま市で引き継がれていることに感謝申し上げます。今回は若いお二人との絆も生まれたようで、少々関わらせていただいた私は嬉しい限りです。